

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

倉橋中学校区 校番 30 学校名 呉市立倉橋小学校

a 学校教育目標	かかわる つながる 学び続けるひと ～未来社会に役立つことを見据え～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 (学校の使命)	【学園】道なき未知へ突き進む「ひと」としての根っこを育てる 【小】集団の中で確かな学力と社会性を育成する
			〈ビジョン〉 (将来の学校像)	【学園】あこがれ、憧れられる育ちの環をつくる「学びの場」 【小】安全・安心で信頼される学校

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	9年間を見通した学力・生活力向上に係る組織的な取組が進み、授業改善への意識が高まり、異学年や地域との交流・協働による活動が充実してきた。しかし、依然として基礎・基本の定着に課題があり個に応じた指導・支援を充実させる必要がある。その上で情報の整理や表現力の育成に取り組む必要がある。基本的な生活習慣及び自己有用感についても課題が改善されつつあるが今後も取組を継続する必要がある。 ①学力(基礎・基本/論理的表現力)の課題克服に向けた組織的な指導改善 「主体的な学び」「個に応じた支援」 ②他者との関わりや個を大切にしたい。協働的な教育活動の深化 「社会性」「自己有用感」 ③健康・安全な生活基盤づくりと体力づくりへの主体的な取組の推進 「自律」 ④教職員が意欲とやりがいをもって働くことができる風土・業務改善の継続 「働き方改革」「不祥事の未然防止」				(表現) 「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。」 (協働) 「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしています。」
育成すべき資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性		

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・③ 年目)						自己評価						
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための 方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標 値	上半期			下半期			
						i 達成 値	j 達成 度	k 評価	i 達成 値	j 達成 度	k 評価	
***	① 主体的に学び合い考え、 表現できる子供を育て る。 「主体的な学びの実現」	組織的な指導改善・個 に応じた支援を行い、 基礎的・基本的な学力 の確実な定着を図る。 「日々の授業を大切に する」	・学習規律の定着を図る。 「理由を付けて話す」 「反応しながら聴く」 ・1時間の「授業サイクル」に 沿った授業を行う。 「課題設定」…「めあて」 「対話による考えの深化」 「まとめ・振り返り」 ・学力補充の時間の確保と 個に応じた指導の工夫を 行う。 ・読書活動の充実を図る。	・「授業サイクル」と連動した児 童アンケートによる児童の肯 定の評価 ・各学期末国語テスト・算数テ スト(知識・技能)の正答率80% 以上の児童の割合 ・標準学力調査で全国平均を上 回る学級(教科)の割合 ・学年読書目標冊数達成児童 の割合	80%	84%	105%	A	91%	114%	A	
		主体的・対話的で深い 学びの実現に向けた単 元を工夫し、目指す資 質・能力の育成を図る。 「カリキュラムマップに 基づく単元の実行」	・「学びのデザインシート」を 活用し課題発見・解決の過 程を位置付けた単元づくり を 確実に行う。 ・「課題発見・解決学習」に係 る児童意識調査「表現」「協 働」の肯定的評価の割合(児童 アンケート)	80%	70%	88%	B	80%	100%	A		
				・標準学力調査で全国平均を上 回る学級(教科)の割合 ・学年読書目標冊数達成児童 の割合	60%	—	—		58%	97%	B	
					85%	75%	88%	B	86%	101%	A	
					90%	88%	98%	B	93%	103%	A	
					表現 協働	90% 87%			92% 95%			
**	協働し、自他を大切にす る子供を育てる。 「社会性・自己有用感の 涵養」	生活目標を意識し日常 化させる。※重点項目 ・「自分から挨拶」※ ・「5分前行動」 ・「無言掃除」 ・「あったか言葉・あっ たか行動」※	・各学年で生活目標達成 に向けた具体的な取組 を行 い、振り返りと評価 を継続する。 ・教科等・行事の中で、地域 や異学年との交流、縦割り 活動の場を仕組み、振り返 りと評価を充実させる。 ・年間を通して取組のあしあ とや相互評価等を掲示し 共有する。	・毎月の生活目標が80%以上 守れたクラスの割合 ・各項目児童振り返りアンケート (学期末) 肯定的評価	85%	81%	95%	B	86%	101%	A	
		主体的に他者とかかわ り認め合う温かい集団 づくりを行い、自己有用 感を高める。	①「自分にはよいところがある」 ②「自分のよさは周りから認めら れている」 ③「学校が楽しい」と感じる児童 の割合 (児童アンケート)	90%	86%	95%	B	90%	100%	A		
					① ② ③	82% 78% 97%			89% 86% 95%			
*	健康・安全な生活づくり、 体力づくりを自ら実行す る子供を育てる。 「自律した生活基盤 づくり」	よりよい生活習慣を定 着させる。	・げんきアップチェックを活用 した取組を毎学期1回実施 し、振り返りと評価で意欲と 意識を高める。 ・メディアの利用について家 庭と連携し、取組を行う。	・げんきアップチェックの期間で メディアの時間を守れた児童 の割合 ・基本的な生活習慣アンケート(保 護者)の肯定的評価の割合	70%	73%	105%	A	73%	105%	A	
						80%	72%	90%	B	71%	89%	B
		自ら考え「自分の命は 自分で守る」力と体力を 向上させる。	・倉橋に起こりやすい災害や、 災害時に避難する場所・方 法が理解できている児童の 割合 ・新体力テストの3種目(50m 走、反復横跳び、20mシャ トルラン)の総合評価がC以上 の児童の割合	95%	99%	104%	A	100%	105%	A		
			・防災に係る取組、避難訓練 をさらに充実させる。 ・敏捷性、走力、持久力向上 に向けて体育の授業の最 初に体幹を使う運動や3分 間走を行う。	・場所方法 の割合	100% 98%							
					60%	74%	123%	A	79%	132%	A	

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(目標達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:できていない<60